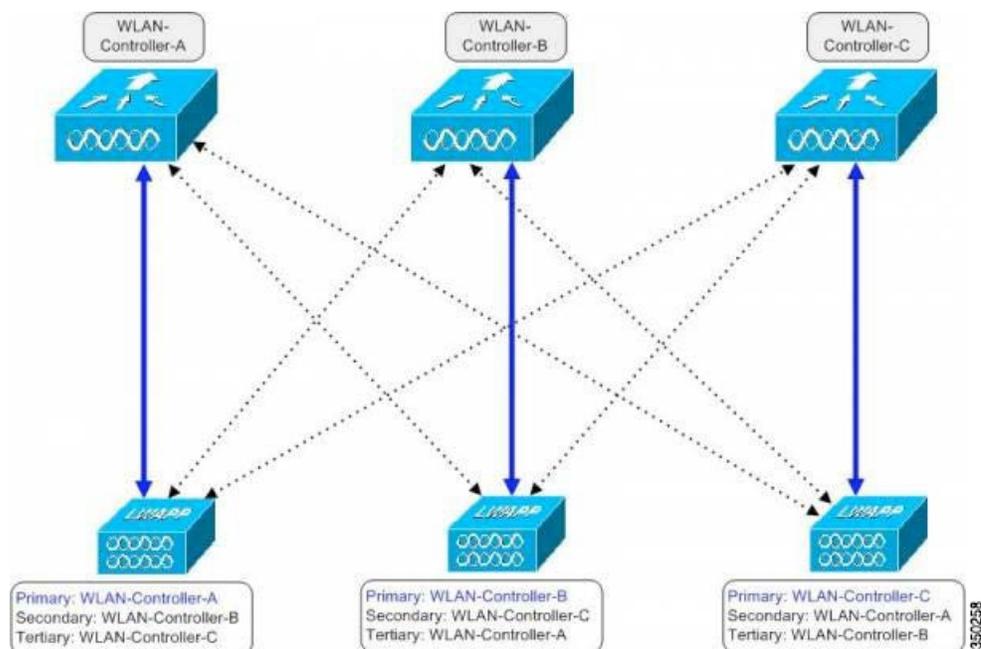




## ハイ アベイラビリティ

WLC5760 初期リリースでは、AP は第 1、第 2、および第 3 コントローラを使用して設定できます。1 台のコントローラで管理される AP 数が原因で第 1 コントローラに障害が発生した場合、アクセス ポイントは第 2 コントローラにフェールオーバーします。第 1 コントローラが使用できないことを検出すると、AP はコントローラを再検出し、第 2 コントローラに CAPWAP トンネルを確立します。さらに、クライアントは AP で再認証される必要があります。図 10-1 は第 1、第 2、第 3 コントローラの冗長性を図示しています。

図 10-1 WLC5760 ハイ アベイラビリティ



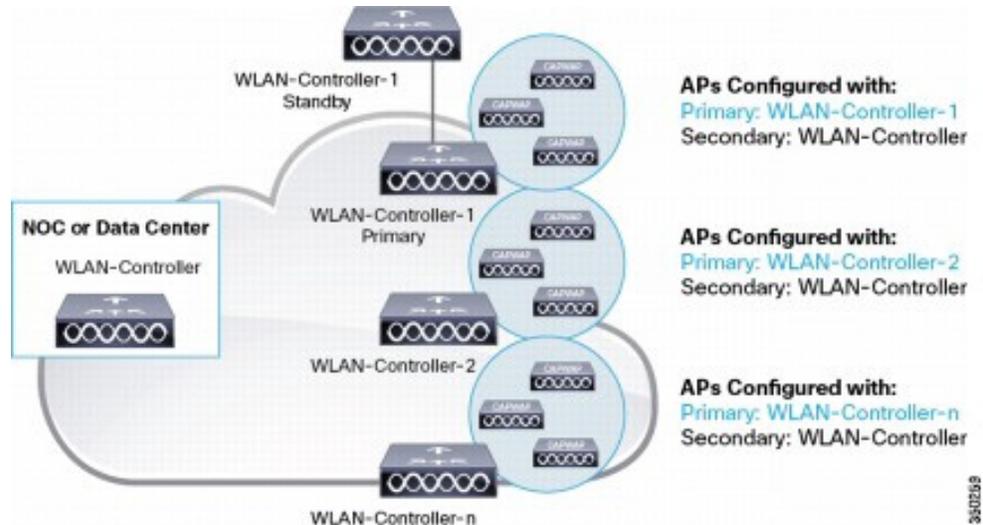
  
(注)

リリース 7.3 以降では、従来の WLC コントローラでアクセス ポイントのステートフル スイッチオーバー (AP SSO) をサポートします。AP SSO ハイ アベイラビリティ機能に関する追加情報については、『[High Availability \(AP SSO\) Deployment Guide](#)』を参照してください。

## N+1 冗長性

CT5760 コントローラがデータセンターに配置され複数の WLC のバックアップとして機能する場所では N+1 冗長性がサポートされます。各 AP は第 1 コントローラとして 1 台の WLC に設定され、すべての AP が第 2 として 1 台の冗長コントローラに切り替わります。

図 10-2 N+1 冗長性



## ハイ アベイラビリティ設定

```
#ap name apname controller ?
primaryConfigures primary controller
secondaryConfigures secondary controller
tertiaryConfigures tertiary controller
```

次のコマンドを使用して設定を確認します。

```
#show ap name <ap-name> config general
```

コントローラの障害検出時間を短縮するには、コントローラと AP の間のハートビート間隔に設定するタイムアウト値をより小さくします。

```
#ap capwap timers heartbeat-timeout <1-30>
```

第 1、第 2、第 3 コントローラを特定の AP に対して設定するオプションに加えて、特定の AP に対してプライマリ、セカンダリ バックアップ コントローラを設定できます。AP 側で設定された第 1、第 2、第 3 WLC がなく、コントローラ側 (AP にダウンロードされる) にプライマリおよび/またはセカンダリ バックアップ コントローラが設定されている場合、このプライマリおよび/またはセカンダリ コントローラが AP のプライマリ ディスカバリ要求のメッセージ受信者のリストに追加されます。特定のコントローラのプライマリ バックアップ コントローラを設定するには、次のコマンドを使用します:

```
(config)#ap capwap backup ?  
primaryConfigures primary Controller  
secondaryConfigures secondary Controller
```

